慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	化学企業の多角化と研究開発戦略 - 公開特許をもとに -
Sub Title	
Author	坂口保雄(Sakaguchi, Yasuo) 青井倫一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第606号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0606

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0606

学生氏名　坂口保雄　　主査　青井倫一
副査　関谷　章
所属ゼミナール　青井倫一研　　矢作恒雄

化学企業の多角化と研究開発戦略
― 公開特許をもとに ―

化学産業を取り巻く環境を考えた場合、昭和62年後半からの化学産業の活況は一時的なものであろう。成熟期にある化学産業が今後も成長を得るためには新たな成長市場を探さなければならない。化学産業にとって多角化は成長のための必要条件である。そして個々の企業は自社の研究開発により新規事業の種を探さなければならない段階まで技術的に成長している。本論文に於いては、公開特許から、旭化成、東レ、昭和電工、三井東圧、信越化学の研究開発動向を分析し、化学企業の研究開発の方向と新規の分野へ多角化を行う場合に研究開発をどの様に結び付けているか考察した。

分析対象の各企業は特許分野を増加し、全特許出願件数を増加してきている。新規分野は医療関係、情報材料関係、電子材料・部品の異業種との境界分野である。これらは、自社技術の関連分野の研究開発である。しかし大きな資本を固定する既存の事業は特許件数でみる限り、研究開発努力の50％以上を吸収している。特許内容を企業の持つ製品・技術から眺めると、自社の技術的蓄積の高い分野の特許出願件数が多い。研究開発の戦略的な性格は、製品・技術のライフサイクルに合わせて製造工程の開発を含む新製品開発に始まり、市場拡大の為の応用製品の開発を行い、最後に市場での地位を維持向上するべく生産技術関係の研究開発へ集中することがわかった。

各社の事例分析から業際分野への多角化を行う場合、自社開発技術は多角化のシーズとなるが、多角化事業の発展はその後の技術吸収、技術協力に負う部分が多い。しかしそのシーズは、新規事業に於ける基礎的な技術とならねばならず、基礎的な研究開発がやはり新規事業の成長を左右する。化学企業は、業際市場への多角化を積極的に推進するであろう。その多角化を継続させるためには、基礎技術開発と技術吸収から得られる蓄積される技術の多様性が必要である。